団体名：まちづり桜の会「大正ロマン女人（おんな）のまつり」実行委員会

活動名：錦帯橋「灯のまつり」

実行委員長／森本（もりもと）　佳代子（かよこ）　　所在地／岩国市岩国２－３－２８

■　活動紹介

しの笛が川面を渡る、小舟が満月の夜をゆきかう、千人の行灯の灯が波となり、うねりとなって、五橋を埋めつくす。

宇野千代の故郷で繰り広げられた錦帯橋「灯のまつり」４００年の歴史と文化、自然が息づく小さな城下町岩国。かつての繁栄から取り残された、さびれゆく町、取り残されたが故に存在する初めてなのになぜか懐かしい不思議な空間。この小さな町に、年間２００万人とも言われている全国からの観光客に、一人でも多く入って頂きたいと言う願いから、４年前に女達が中心で立ち上げた町づくり。何もないけれど、溢れるほどの夢と熱い思いをもって、宇野千代の代表作「おはん」の舞台となった大正時代の町並がそのままに残る城下町を、宇野千代と錦帯橋、二千本の桜をキーワードに女人達が紡ぐまちづくり。女達が桜の花びらとなって人々の心に舞いちります。男達は桜の太い幹となって、それを支えて下さい。男達と女達で創る町づくり。そんな願いが、心在る男達に支えられて、今実現しています。「大正ロマン女人まつり」錦帯橋「灯のまつり」はそんな中から生まれました。３０名のスタッフと１８０名のボランティアによって行われたこのまつりは、スタッフ、参加者、２万人の観客、三者三様の感動が感動を呼び、あたり一帯に感動の渦が巻いていると感じた一瞬でした。何も無いからこそ、出来る町づくり。人々にこの町のもつ、宇野千代の情感を育てた風情をもって、感動を持って帰って頂ける企画をこれからも、出会った仲間達と創り上げてゆきたいと願っています。こわれてしまえば二度と帰れない。今ならまだ間に合う、私たちの文化遺産の町。女達だから出来る町づくりがここにはあると感じています。今年もまた行う錦帯橋「灯のまつり」の出番を待っている私達です。